

キリスト教に関する三つの疑問が解けた

九鬼隆義の本意

山間の僻地にあった三田藩。もちろん海はどこにもない。西洋文明とは、海が運んでくるものだが、九鬼家十三代当主、隆義の場合は、少し違っていた。

明治五年、夏。有馬に避暑に来ていたデービスという宣教師に自ら近づき、キリスト教に接し、又、西洋文明に出会った。彼は熱心に宣教師達との交際を求めた。しかも、まだこの時、キリスト教はご禁制の時代である。また、三田を出、神戸へと居を移した後も、三田の陣屋での布教活動をゆるしている。当然、彼もキリスト教に接し、毎週日曜

礼拝に出席し、信仰を持つようになる。隆義の元従者達も同じ様に熱心に耳を傾け、キリストの教えに傾倒して行った。それだけではない。今でこそ、プロテスタントの教会は数知れずあるが、神戸で第一号のピューリタンの流れを汲む教会を、教会の一員として、創設している。他にも伝道を目的とした、いわゆるミッションスクールも創



明治六年五月。娘の肇姫が逝去すると、日本で初めてのプロテスタント

の葬儀をも行っている程。ところが、隆義氏の調査を進めていくと、疑問点がつぎつぎと沸いてくる。この様に熱心に見える信仰者であるにも関わらず、彼自身が洗礼を受けたのは、亡くなるわずか四年前。なぜだろうとずっと頭の隅にあつた。最初は、「キリスト教を一並ぶ壮大な寺である。娘・肇姫を亡くした時に挙げたキリスト教の葬式に激怒した心月院の住職が、墓石設置を拒否した」という経緯もある。早々と洗礼を受けてまた、心月院を激怒させてしまつたら、先祖代々の墓をどうするかという問題が起きるだろう。なるほどと言う考えにかわつた。そして第二の疑問が発生。自身の子供達の名前である。わざわざマルーやアレーと命名している。この明治の初期に。各

あやかりたいと思つたのであろう。しかし、彼の立場を考え、彼が私達とは違ひ、元藩主の責任と責任と言ひ換へてもいいだろう。あの九鬼家の菩提寺並ぶ壮大な寺である。娘・肇姫を亡くした時に挙げたキリスト教の葬式に激怒した心月院の住職が、墓石設置を拒否した」という経緯もある。早々と洗礼を受けてまた、心月院を激怒させてしまつたら、先祖代々の墓をどうするかという問題が起きるだろう。なるほどと言う考えにかわつた。そして第二の疑問が発生。自身の子供達の名前である。わざわざマルーやアレーと命名している。この明治の初期に。各

「隆義はクリスチャンだつたので、子供に、クリスチャン名を付けたのだ。」とある。誰でもこう説明される。しかし、それがくせものなのである。プロテスタントでは、その様なことは絶対にない。あれはカトリックの習慣だ。ではこの命名は一体なぜ？もちろんどんな名前を子供につけようが自由と言うものなのだが。：西洋かぶれの殿様？と誰かが言つた言葉がよぎる。そして第三番目。ある書物を紐解いていると、明治十五年、彼は東京の宮内省準奉御用掛りとなつて、明治十九年まで吹上浜町御苑で勤務している。さすがにこれには驚いた。「キリスト者が、天皇に仕えたりするわけがない。なんと一貫性のない人物だ。」と思つた。しかし、明治の時代、今の時代の人々からすると想像も出来な

いが、仏教に対してさえも政府から廃仏、毀釈という命令があり、信仰の自由は本質的には認められていながつた。ただ、西洋諸国の圧力があつた為、キリスト教は守られていただけである。そこへ、「九鬼殿、宮内省に、勤務せよ」との招聘があれば、拒否するわけにはいかないだろうと言う考え方に変わった。天皇制と言う威圧的な時代である。今の様な言論の自由が認められていない時代、生きてゆくだけでも、苦労があつたと思われる。今の時代の申し子である私は、人の見方の基準が、浅かつたと反省した。あまり、人の生き方をとやかく言うやめにしなう。うなので、やめにしよう。しかし、九鬼奔流の、小林会長に相談して、わたしなりの九鬼隆義像がだいたいの形をなしてきたと言え

(文・種村好)

九鬼奔流通信

2009. 夏
Vol. 008

発行：NPO法人
九鬼奔流で町おこしをする会

「歴史」ブームと町の魅力について

歴女という言葉がマスコミに登場していることは、皆さんご存知でしょうか。「歴史好きの女子」という意味です。『三国志』の登場人物や日本の戦国時代の武将に大きな関心を寄せるので「戦国乙女」ともいわれています。東京・神田小川町にある雑貨や書籍など戦国時代ものの専門店「歴史時代書房時代屋」は、06年2月の開店当初は客のほとんどが中高年男性でしたが、07年頃から若い女性客が増え始め、いまは約40%が女性客だそうです。歴女登場の背景には『三国志』や戦国時代をテーマにしたゲームや漫画が増え、それらのゲームや漫画に触れたのをきっかけに原作本を読

み始めて「歴史通」になる女性が増えてきたと分析されています。歴女たちは、小説、ドラマ、マンガやゲームに登場する人物の熱心なファンとなり、ゆかりの地をめぐるグッズを収集したりする様子が見られます。それらの経済効果を測る報道もあります。そして歴女の人気を集めているのは、天下取りの大将や正義漢のイメージが強い名将だけでなく、直江兼続、石田三成など、「義」を重んじ気骨を持つて生きた武将たちであることが特徴的といわれています。このブームの理由を、頼れるリーダー不在の現代に「深さや友情、勇気といった

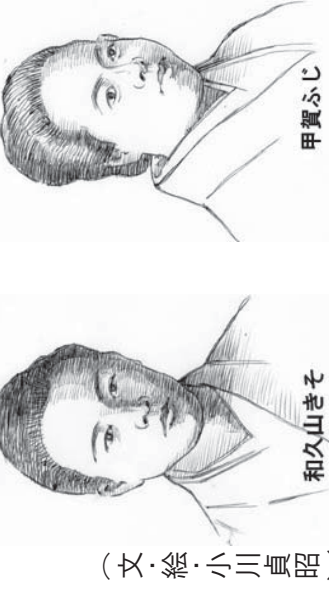
現代に欠落したものをもたらしてくれる武将への共感と推測しているブログもあります。さて、彼女たちにわが町三田に関心を持つてもらうために、どうしたらいいでしょうか。まずは、三田に彼女たちが関心をもつであろう時代のパイオニアが多くいたことを知ってもらうことが第一です。幕末の三田において近代的感覚をもつたわが国幼児教育のパイオニア、甲賀ふじ、そして日本人として最初の保育指導者の1人となつた和久山きそなど女性で時代の先駆者となつた人物も輩出しているのです。このような先駆者がいたことを三田の若い女性はほとんど知らないと思います。

なぜならば、関係者が知らせる必要があると思つていないのです。そこに大きな問題点があるのです。魅力のある町というすぐに観光都市を連想しますが、決してそういうことではないのです。魅力ある都市とは、まずそこに住んでいる人たちが地元を誇りを持ち、喜び、楽しみ、外から入つて来た人たちがそれを眺めて刺激を受け、共に楽しむことではないでしょう

か。その源泉がその町にしかない歴史や文化、また地域が創意工夫、真似ではない個性にあふれているということだと思つたのです。歴女たちが先に述べた甲賀ふじや和久山きそをはじめ川本幸民や九鬼隆義、白洲退蔵など三田出身の人物に興味をもち、歴史を楽しみ話題を提供してくれば三田の町はすこしは盛り上がると思つたが、いかがでしょうか。

わが国幼児教育のパイオニア

- 甲賀ふじ
 - 神戸女学院 第一回卒
 - 日本人初、米国で幼稚園保育資格を取得
 - 4回渡米、社会福祉事業に貢献。
- 和久山きそ
 - 神戸女学院、同志社に学ぶ
 - 西洋式保育黎明期の指導者の1人。フレール主義を實踐。幼児教育に一生を捧げる
 - 関西で幼児教育発展の基礎を築く



(文・絵・小川貞昭)

三田の歴史と町の魅力を再発見し、楽しむ集まりです。

歴女、集まれ！

ただいま「歴史好き女性」会員、募集。

当NPO法人では三輪神社下の三輪会館において、月1回(第3日曜日)14時から17時まで例会を開催しています。三田の歴史をテーマとしていますが、三田の歴史に詳しい必要はありません。お気軽に参加ください。お待ちしております。

NPO法人 九鬼奔流で町おこしをする会
連絡先 三輪会館・高田まで
TEL:079-564-4538